

先日のニュース（3月25日）によると、世界自然遺産候補地に関する検討会が、世界自然遺産に推薦できる候補地として、今後詳細に検討する地域17箇所を選定したと言う。その17箇所の一つとして、当朔東管内から6個が選ばれた。

周知のように、世界遺産(the World Heritage)とは、世界遺産条約(通称)に基づき、世界遺産委員会が作成する世界遺産一覧表に記載された遺産のことを指し、文化遺産、自然遺産、この両者に該当する複合遺産に区分されている。1972年のユネスコの第17回総会で、世界の文化遺産及び自然遺産を損傷・破壊等の脅威から保護し、人類全体の為の遺産として保存することを目的として、世界遺産条約が採択された。

昨年6月の第26回世界遺産委員会でが開催され、9件が追加登録され、世界遺産は、125ヶ国の730件(自然遺産が144件、文化遺産が563件、複合遺産が23件)になった。

現在日本は、次の11件が世界遺産として登録されている。それらは、次の

① 白神山地 ② 日光の社寺 ③ 白川郷・五箇山の合掌造り集落 ④ 古都京都の文化財 ⑤ 法隆寺地域の仏教建造物 ⑥ 古都奈良の文化財 ⑦ 姫路城 ⑧ 広島の平和記念碑(原爆ドーム) ⑨ 巖島神社 ⑩ 屋久島 ⑪ 琉球王国のグスク及び関連遺産群 である。

今後、世界遺産リストに登録する予定の暫定リストとして、① 古都鎌倉の寺院・神社 ② 彦根城 ③ 紀伊山地の霊場と参詣道 ④ 平泉の文化遺産 ⑤ 石見銀山遺跡が、ノミネートされている。

さて、今回世界遺産に推薦出きる候補地としてリストアップされた17個から、5月末頃までには最終的な候補地が決定され、ユネスコの世界遺産事務局に提出される。朔東では、① 知床 ② 阿寒、屈斜路、摩周湖 ⑤ 日高山脈 ⑥ 大雪山である。

(参考までに、北海道で検討対象に挙げられているのは、「利尻、礼文、サロベツ原野」地域である。、

これらのうちいずれかが選考されると北海道初、勿論朔東初となる。大いに期待したい。

夫々の地域は紹介するまでもないほど著名ではあるが、簡略にを紹介しよう。

● 知床 (朔東から第38号参照)

日本最後の秘境とも言われる。最高峰の羅臼岳(1661m)、硫黄山(1563m)、知床岳(1254m)などの知床連山と呼ばれる山脈が縦走し、半島の東岸と西岸の分水界をなす。海岸部では、標高20～80m、100～180mの2段の海岸段丘が発達する。海岸線は山麓や段丘が海食を受けて発達した断崖、急崖が多く、とくに西岸で著しい。崖を刻む幼年谷には滝がかかり雄大な景観を呈する。知床観光船(遊覧船)で半島西海岸の断崖絶壁を眺め、自然の神秘に触れ、ロマンチックな名勝を堪能することが出来る。海食崖にはウミウ、オオセグロカモメ、ウミネコ、イワツバメのコロニーも随所に見られる。オジロワシも生息する。

半島は道内の最奥であること、地形が険しいことなどのため国内で最も開発の及ばない地域であり、陸路は東岸で相泊、西岸で岩尾別までしかなく、知床岬に至るものはない。宇登呂、羅臼の両漁港を基地として秋にサケ漁が行われる。羅臼の知円別から知床岬付近までの沿岸では、7～8月に、点在する番屋に泊まり込んでコンブを採取する。

火山や海食崖の雄大な景観が保たれ、動植物も多いため、1964年知床国立公園となった。各火山の山麓に針葉樹のエゾマツ、トドマツ、広葉樹のミズナラ、ダケカンバの原生林がある。標高500～900m以上はハイマツにおおわれ、シレットコスミレなどの高山植物群落もみられる。橙色のエゾスカシユリの群落、紅紫色のハマナス、山吹色のエゾカンゾウが咲き乱れる。おもな観光地として、知床八景と呼ばれる、溶岩台地上に点在する火山堰止(せきとめ)湖の知床五湖、オシンコシンの滝、知床峠(1980年開通)、カムイワッカの湯の滝、夕陽台などがある。太古の自然が残っているので、様々な動植物の宝庫である。アクセスが良くなり観光客が増加したこと等もあり、自然破壊も深刻であり、総量規制が検討されている。

(阿寒、屈斜路、摩周は夫々を説明する。)

● 阿寒

阿寒湖を中心に、東岸に雄阿寒岳がそびえ、南岸に阿寒湖畔温泉があり、阿寒国立公園となっている。阿寒湖は、カルデラ底にある湖だが、湖岸線は屈曲が多い。阿寒の特徴は、「森と湖と火山の調和した大自然美」とか「カルデラ湖と火山が形造る雄大な景観と豊かな自然の調和」と表される国内2番目に国立公園に指定された自然の宝庫である。北海道観光の草分け的存在とも言われる。

阿寒湖のほか北麓にパンケトウ、東麓にペンケトウなどの堰止湖である阿寒5湖で疲れた心身を癒そう。阿寒湖には、大島を初めとする大小四つの小島があり、湖水は南東隅から阿寒川によって排水される。湖岸には原生林がせまり、春のエゾムラサキツツジ、初夏のジャクナゲ、秋の紅葉が彩りを添える。世界でもっとも美しいと言われる阿寒湖のマリモ(明治27年発見、沼の妖精)は特別天然記念物で、現在は北部の2カ所のみ生育している。チウレイ島にはその展示観察センターがある。阿寒湖は、通常12月下旬に結氷、阿寒湖氷上遊園センターでの広大な遊びが出来る。

阿寒湖畔温泉は観光基地であり、温泉街に隣接するアイヌコタンでアイヌ文化や伝統に触れるのも良かろう。

● 屈斜路湖

東西26km、南北20kmのほぼ円形をなす世界有数の屈斜路カルデラの中にある、日本最大のカルデラ湖である。ネッシーならぬクッシー(昭和48年夏初現出?)で大騒ぎになったこともある。湖の中央に浮かぶ周囲約12kmの中島は、二重式火山で、中央部には溶岩円頂丘がある。外輪山には標高800～1000mの藻琴山始め数個の山がある。北東端に流れこむ湯川にアトサヌプリ火山からの酸性の水が含まれているので、湖水の水素イオン濃度が低く、プランクトンや魚類は乏しい。ほかにも尾札部川などが流入し、南端の釧路川から流出する。屈斜路湖の東岸には、北から仁伏、砂湯、池ノ湯、和琴の各温泉がある。湖の南部にある和琴半島は、尾札部川の扇状地が発達して連結された陸昔島で、周辺には各所に噴気孔があり、一帯はミンミンゼミの北限生息地として天然記念物に指定されている。湖は冬

季でも凍結しないため、ハクチョウが飛来する。屈斜路カルデラ外輪山の鞍部にあたる美幌峠(525m)は、このカルデラ全域、北見盆地、オホーツク海等を展望できる大パノラマであり、道東の有数の観光スポットである。屈斜路湖は、日本最大の御神渡りが見られることでも有名だ。

● 摩周湖

神秘性と透明度の摩周湖は、カルデラ湖である。カルデラは長径7.5km、短径5.5kmのほぼ長円形をなし、カルデラ壁は500~700mの高さで、急崖をなして湖面に臨んでいる。流入・流出河川はない。著しい貧栄養湖で水色は藍色を呈し、透明度が高く、1931年調査では41.6mを記録して、バイカル湖をしのぎ世界第1位といわれたが、近年は30m以下に低下している。湖の南東部のカルデラ内に噴出してカルデラ壁の一部を覆うカムイヌプリ(摩周岳:855m、魔神の山)は急峻な円錐形をなし、神秘の湖のバックボーンとなっている。噴火の記録はない。湖の中央部にあるカムイシュ島は、長径110m、短径40mの溶岩円頂丘である。湖の南西端の外輪山上に設けられた第1展望台からは根釧原野も見渡せるが、観光シーズンの夏には太平洋からの移流霧で視界が遮られることが多い。摩周湖の全景を拝めた人は幸せだ。第1展望台の北約2km地点には第3展望台があって、湖全体とカムイヌプリの展望にすぐれている。裏摩周も表摩周と違った趣がある。

● 日高山脈

北の狩勝峠(644m)から南端の襟裳岬まで、南北約150kmにわたって連なり、北海道南半分の脊梁山脈であり、且つ十勝支庁と日高支庁の境界をなす。

十勝平野からみると日高山脈は灌風を立てたように連なって見える。これに対し西側は数段の階段断層をなして海岸近くまで達する緩斜面で、沙流川、新冠川などが谷をつくり、海岸段丘を切って海に注ぐ。

北部は標高が高く、また氷河地形が広く分布し、高山的な山容を呈しているが、芽室岳以北では急速に高度が下がり、山容もおだやかとなって、日勝峠、狩勝峠に至っている。中部は、深い谷が両側に連なり、稜線はやせて急峻な山地をなす。カール地形は主として脊梁の東側にみられる。南部は中ノ岳以南で、一般的にはいずれも1500m以下の山からなる。標高は低い山地は急峻である。

種々の高山植物や、ヒグマ、ナキウサギなどの動物がみられるが、山脈西部の新冠川の新冠ダム、静内川の高見ダムの建設や森林伐採のための著しい林道開発によって、日高山脈の原始性は破壊される危険にさらされている。

● 大雪山

北海道の最高峰旭岳(2290m)をはじめ、標高2000m前後の山が十数座あり、「北海道の屋根」と称される。さながら、火山の展示場とも言われる位に広さ、形成過程等変化に富んでいる。北鎮岳(2244m)を初めとする古大雪火山と、洪積世末に形成された旭岳等から成る。

大雪山の山頂部には、大小の池沼や高原性の湿地が多く、各所にはみごとな高山植物群落が開発し、これらのお花畑はアイヌの人からは「神の庭」と呼ばれた。この時期に、縦走出来たら最高だろう。また、エゾシマリス、ナキウサギなどの小動物やウスバキチョウをはじめとする各種の高山チョウがみられる。これらの生物群は学術的にも貴重なもので

ある。標高1300～1500mまでの間は亜寒帯性の針葉樹林帯であり、徐々にダケカンバ帯からハイマツ帯に移行している。天然保護区域(特天)である。見渡す限りに広がる大原生林は、同内でもいち早く8月下旬から始まる紅葉時の景観も素晴らしい。上川支庁管内を表大雪と十勝支庁管内を裏大雪と呼称している。層雲峡の溪谷美にも驚かされる。

(参考：百科事典、各種のガイドブックやパンフレットetc)